

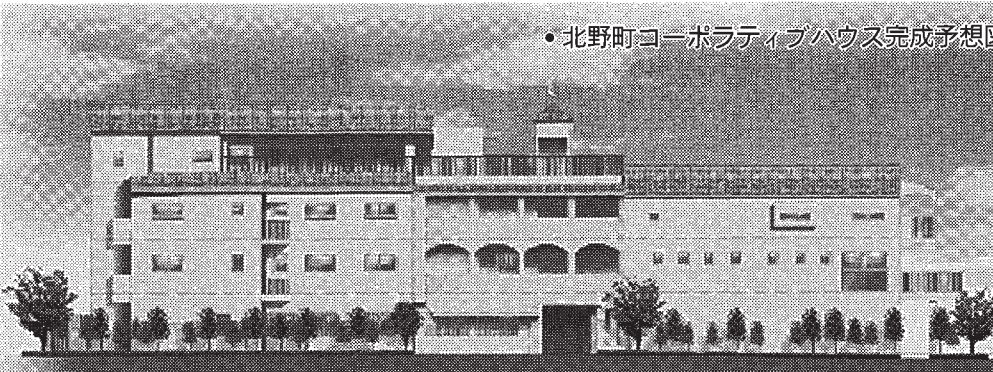
特集・関西発オンリーワンを目指して、土地再生ビジネスの展開

採算面で開発会社敬遠も潜在需要 4階建て マンションに キューブが

長引く不況を背景に、大企業部門からの土地の放出などで新規マンションの大量供給が続いているが、高き規制や変形地

神戸北野町 コーポラ事業 塩漬け地を再生

160坪・13m高さ規制・8m接道…



北野町コーポラティブハウス完成予想図

キューブが手がけた中規模・変形敷地の再生事業のうち最新の事例が神戸市・北野町のコーポラティブハウス事業。

そのうえで、あらかじめ参加者（居住者）を募り、高き規制や変形地を踏襲する「住居地としての日本中探してもないような立地」(同)条件で、

具体的には、入居者が募集される。重要になる資金計画について住宅金融公庫

公的融資メニューで支援 住居地としての日本中探してもないような立地」(同)条件で、募集は昨年十一月にスタート、今年二月に

建設組合は、最終的に融資が実現すれば、参加者が集まると、公庫融資が実行されるまでの間に

設計費など初期資金にも融資するのが特徴で、まちづくりを融資面から誘導、

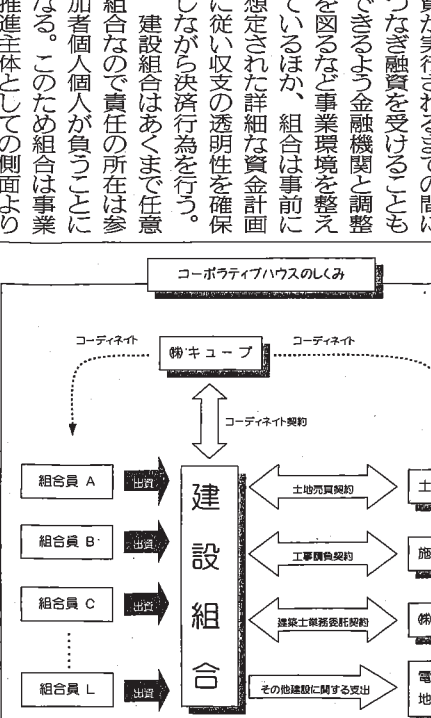
そのために洋館が以前移築された際に発生した廃材を最大限に活用。

「最大の特徴は、従来の取得が、コーポラティブでは顧客自身がほしい場所を、ほいほい物件を獲得できる点

「統」といって、各々が表面化せず、円滑に事業が進むよう配慮。これにより、

「この建物が存在する限り明治時代の残存」を自覚して、全体計画も細部にわたるまで参加者に提案し理解を得ながら決定するうえ、

洋館の古材も活用



建設組合のしくみ

記憶の継承 テーマに

北野町コーポラティブハウスの特徴の一つとして、コストパフォーマンスがあげられる。

インタビュー

天宅 毅氏 キューブ社長

天宅 毅(あまやけ・たけし)さん 1989-96年にリクルー

「大規模供給住宅需要は枯渇しているように見えるが、実はまだ供給不足

土地は甦る「コーポラティブ」その可能性

進められる事業がほとんどで、最近メディアの影響で一般的に住まいに対する意識が高まり、

「ただ、自ら土地を購入し設計と工事」を発注する事業です。

「新しい供給スタイルへ」

「統」といって、各々が表面化せず、円滑に事業が進むよう配慮。

「統」といって、各々が表面化せず、円滑に事業が進むよう配慮。

「統」といって、各々が表面化せず、円滑に事業が進むよう配慮。

「統」といって、各々が表面化せず、円滑に事業が進むよう配慮。